

まつ なが じ あん  
松永耳庵と同時代の美術家

Matsunaga Jian and His Contemporary Artist

会期 2023年1月24日|火|-4月2日|日|

会場 松永記念館室

## List of exhibits

- “◎” denotes an Important Cultural Property.
- “First half” on view 1/24 -2/26.
- “Last half” on view 2/28 -4/2.
- Works on display may change without notice.

No	Title	Artist	Material and Technique	Period/Century	Size (cm)	Collection
1	Drawing for “Portrait of Matsunaga Jian”	MAEDA Seison (1885-1977)	ink on paper	Japan, dated 1953	89.4×66.4	
2	Scroll Depicting Famous Incidents of the Heike Clan		ink on paper	Japan, 15th century	16.1×625.4	Matsunaga Collection
3	Eggplant	OGATA Kenzan (1663-1743)	ink on paper	Japan, 18th century	20.0×27.6	Matsunaga Collection
4	Eggplant	MAEDA Seison (1885-1977), Inscription by MATSUNAGA Yasuzaemon (1875-1971)	ink on paper	Japan, dated 1962	62.3×31.1	
5	Ryokan, Zen Master	YASUDA Yukihiro (1884-1978)	ink and light color on silk	Japan, 20th century	99.0×39.0	Matsunaga Collection
6	Hen	Attributed to TAWARAYA Sotatsu (?-?)	ink on paper	Japan, 17th century	102.7×46.7	Matsunaga Collection
7	Cock	Attributed to TAWARAYA Sotatsu (?-?)	ink on paper	Japan, 17th century	96.2×44.5	Matsunaga Collection
8	Writing Box, Decorated in Maki-e Lacquer with Design of Deer	OGI Seisai (1879-1959)	lacquered wood	Japan, 20th century	H. 3.7 D. 21.8×19.5	Matsunaga Collection
9	Tea Bowl Known as “Jikkoku”, Kofuki Type		pottery	Korea, 15th -16th century	H. 7.8 D. 14.7	Matsunaga Collection
10	Tea Bowl, Ko-unkaku Style Celadon		porcelain	Korea, 14th century	H. 10.1 D. 12.7	Matsunaga Collection
11	Water Jar with Lid	Bizen ware	pottery	Momoyama period	H. 17.7 D. 18.4	Matsunaga Collection
12	Du Zimei, Famous Chinese Poet	Attributed to Sesshu (1420-1506) Inscription by Ten' in Ryutaku (1422-1500)	ink on paper	Japan, dated 1498	79.6×16.9	Matsunaga Collection
13 ◎	First half Chinese verses	YUEJIANG Zhengyin (1267-?)	ink on paper	China, dated 1350	34.8×83.6	Matsunaga Collection
14 ◎	Last half Letter to Shutong jiaoshou	Daoqian (?-1106?)	ink on paper	China, 11th -12th century	28.4×47.6	Matsunaga Collection



出品No.8 仰木政斎《鹿文時絵硯箱》

明治時代以後、政財界の著名人の中に茶の湯を趣味とする蒐集家である近代数寄者があらわれます。

彼ら近代数寄者は、伝統的な名品だけでなく、新作品を蒐集対象とすることもありました。近代数寄者は、こうした新作品の蒐集を通して、作品を手がけた同時代の美術家たちと親交を結んだようです。

同時代の美術家と交友をもった近代数寄者の代表格に益田鈍翁<sup>ますだ どんおう</sup> (1848~1938) と原三溪 (1868~1939) がいます。松永耳庵 (1875~1971) と交友をもった同時代の美術家たちも、鈍翁や三溪と親交を結びその支援を受けた人びとでした。本展では松永コレクションを中心に、耳庵と同時代の美術家<sup>ますだ どんおう</sup>が手がけた作品や縁ある作品をご紹介します。

(学芸員 宮田太樹)

## 前田青邨 (1885~1977)

前田青邨は大正から昭和に活躍した日本画の巨匠です。原三溪は、安田靉彦(1884~1978)、小林古径(1883~1957)らとともに青邨を支援しており、生活費や研究費の支給、作品の注文といった金銭的な援助に加えて、自身の蒐集品を実見する機会を設けました。三溪は、昭和14年(1939)4月16日に開催した茶会に耳庵や青邨を招いています(田中親美「原三溪先生を憶ふ」『日本の茶道』第5巻第9号、昭和14年)。耳庵と青邨が知遇を得たのは、これがきっかけであったと想像されます。

三溪はこの茶会の4カ月後の8月16日に亡くなりますが、同年9月21日に、仰木魯堂(1863~1941)によって開かれた追善茶会にも耳庵と青邨は招かれています(『雲中庵茶会記』同日条)。その後もそろって茶事に招待されているほか(『雲中庵茶会記』昭和19年3月18日条)、耳庵が主催した茶事に招客として青邨を迎えるなど(『雲中庵茶会記』昭和19年5月2日条)、三溪の没後も両者の交友は途絶えることなく続いていた様子をうかがうことができます。

《松永耳庵老之像》(作品1)は、耳庵の八十の賀を祝うために青邨に制作依頼された肖像画の下絵です。「私の線で出来るだけ簡素化してその人の持つ美しさを出したい」と青邨が語るとおり、描線主体で描かれた耳庵の姿は厳しさの中にも穏やかさを秘めた独特の雰囲気があります。

青邨は、着色画のみならず水墨画、とくに墨による描線を主体とした白描画にも積極的に取り組んだ画家です。《平家公達草紙》(作品2)は、中世に制作された白描絵巻ですが、部分的に青邨の模写が挿入されています。本作の流麗な描線から、古画の模写や写生によって獲得された青邨の卓越した画技をうかがうことが出来ます。

《茄子図》(作品4)は尾形乾山の《茄子図》(作品3)を写したものです。絵を青邨、賛を耳庵が手がけた合作です。落款より耳庵が88歳を迎えた昭和37年(1962)の春に描かれたと分かります。同年10月に開催された耳庵の米寿祝の茶事にも、やはり、青邨は招かれています(「耳庵翁米寿」『陶説』117号、昭和37年)。

## 安田靉彦 (1884~1978)

安田靉彦は前田青邨と同時期に活躍した日本画家です。耳庵の茶友である仰木政斎(1879~1959)が「安田画伯は古径青邨両氏と共に三溪翁時代よりの知己」(「大磯加藤家の茶」『雲中庵茶会記』昭和19年10月19日条)と語っているとおり、三溪を介して耳庵も親交を結んだようです。

耳庵が自身の主催する茶事に靉彦を招いた記録は見つかっておらず、青邨と比べると親密な付き合いでは

なかったかもしれません。ですが、松永コレクションには、いくつか靉彦との関わりを感じさせる作品があります。

《良寛像》(作品5)は、江戸時代後期に活躍した禅僧良寛が庵で静かに座る姿を描いた作品。靉彦は若いころに良寛の書を目にして以来その魅力に取りつかれ、多くの良寛像を手がけており、本作もその1例です。

作品5は使用された印章から昭和30年代の制作と推定できますが、この頃の耳庵は、自身のコレクションを展示公開する松永記念館(昭和34年(1959)開館)のため精力的に作品蒐集に努めていた時期にあたります。

なお、松永記念館の開館を翌年に控えた昭和33年(1958)に靉彦が描いた大作《飛鳥をとめ》(再興第43回院展出品、石川県立美術館蔵)も一時期耳庵の手元にあったようです(『松永耳庵遺愛品拾遺』9頁、昭和55年)。

また、靉彦は青邨と同じく、古画に多くを学んだ画家です。東洋美術の大家として良寛と共に重要視されたのが俵屋宗達で、作品の研究、鑑定、蒐集に励みました。松永コレクションの宗達画の中にも靉彦の箱書を伴う作品がいくつか含まれています(作品6、7)。

## 仰木魯堂(1863~1941)・政斎(1879~1959)

仰木魯堂は建築家、政斎は木工家として兄弟で活躍しました。いずれも茶人としても有名で多くの近代数寄者と交友を持ちました。

政斎が手がけた《鹿文蒔絵硯箱》(作品8)は、蓋表に頭を下げて水を飲む5頭の鹿、蓋裏および身の内部には「有明の月待やどの袖の上に人だのめなるよひの稲妻」(『新古今和歌集』)という和歌があらわされます。これは、益田鈍翁が所蔵していた、俵屋宗達、本阿弥光悦による《鹿下絵和歌巻》(現在は断簡となりシアトル美術館ほかに分蔵)から絵と文字を写したものです。鈍翁はこの和歌巻を本歌とした蒔絵硯箱をいくつか作らせており、作品8はその内の1つです。本作が耳庵に譲られたのは、昭和12年(1937)のことです(『黄林閣蔵品帳』)。

耳庵のコレクションには魯堂・政斎の旧蔵品が少なくありませんが(作品9、10、12、13)、その多くは耳庵が茶の湯を始めて間もない時期に蒐集されました。

魯堂・政斎は耳庵が特に信頼していた茶人で、政斎が記した茶会記である『雲中庵茶会記』には、耳庵の茶事が多く記録されています。

また、《備前矢筈口水指》(作品11)、《淑通教授宛書状》(作品15)は耳庵、政斎、青邨が同席した茶会で用いられた作品に該当する可能性があります(「好古堂主の茶」『雲中庵茶会記』昭和19年3月18日条)。

## 出品作品リスト

No	作品名	作者名/産地	品質	時代世紀	法量(cm)	コレクション
1	松永耳庵老之像	前田青邨 (1885-1977)	紙本墨画	昭和28年 (1953)	縦89.4 横66.4	
2	平家公達草紙		紙本墨画	室町時代 15世紀	縦16.1 横625.4	松永コレクション
3	茄子図	尾形乾山 (1663-1743)	紙本墨画	江戸時代 18世紀	縦20.0 横27.6	松永コレクション
4	茄子図	前田青邨 (1885-1977)筆、 松永安左エ門 (1875-1971)賛	紙本墨画	昭和37年 (1962)	縦62.3 横31.1	
5	良寛像	安田靉彦 (1884-1978)	絹本墨画淡彩	現代 20世紀	縦99.0 横39.0	松永コレクション
6	雌鶏図	伝・俵屋宗達 (生没年不詳)	紙本墨画	江戸時代 17世紀	縦102.7 横46.7	松永コレクション
7	雄鶏図	伝・俵屋宗達 (生没年不詳)	紙本墨画	江戸時代 17世紀	縦96.2 横44.5	松永コレクション
8	鹿文蒔絵硯箱	仰木政斎 (1879-1959)	木胎漆塗	現代 20世紀	高3.7 縦21.8 横19.5	松永コレクション
9	粉吹茶碗 銘「十石」		陶器	朝鮮王朝時代 15-16世紀	高7.8 口径14.7 高台径5.3	松永コレクション
10	古雲鶴筒茶碗		磁器	高麗時代 14世紀	高10.1 口径12.7 高台径6.3	松永コレクション
11	備前矢筈口水指 共蓋	備前焼	陶器	桃山時代 16世紀	高17.7 口径10.4 底径18.4	松永コレクション
12	杜子美図	伝・雪舟 (1420-1506)、 天隠竜沢 (1422-1500)賛	紙本墨画	室町時代 明応7年 (1498)	縦79.6 横16.9	松永コレクション
13	◎ 前半 七言絶句	月江正印 (1267-?)	紙本墨書	元時代 至正10年 (1350)	縦34.8 横83.6	松永コレクション
14	◎ 後半 淑通教授宛書状	道潜(?-1106?)	紙本墨書	北宋時代 11-12世紀	縦28.4 横47.6	松永コレクション

- ・◎は重要文化財を示します。
- ・前期の記載のある作品は、1月24日(火)~2月26日(日)まで、後期の記載のある作品は2月28日(火)~4月2日(日)までの展示です。
- ・都合により展示作品を変更することがあります。